

## 自己評価報告書

平成 23 年 5 月 2 日現在

機関番号：14403

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008 ～2011

課題番号：2052055

研究課題名 (和文) 近代化の中の伝統宗教と精神運動—基準点としての近角常観研究

研究課題名 (英文) CHIKAZUMI Jokan and His times

研究代表者

岩田 文昭 (IWATA Fumiaki)

大阪教育大学・教育学部・教授

研究者番号：00269951

研究分野：宗教学

科研費の分科・細目：哲学・宗教学

キーワード：近代仏教、知識人宗教、大正教養主義、真宗、歎異抄、宮沢賢治、三木清

## 1. 研究計画の概要

(1) 近角常観が発行した機関紙の分析に取り組む。近角は三種類の機関紙、すなわち『政教時報』『求道』『信界建現』を発行していた。この新聞には、近角自身の論説も多く掲載されているが、その他、信者・賛同者の寄稿文や会合の記録、寄付者の名前など多くの情報が掲載されている。これらの機関紙はその大半が近角の布教の拠点であった求道会館に未整理のまま大量に残されている。また、一部が大谷大学や京都大学に残っている。これらの機関紙を体系的に収集・整理し、その上で、分析する。

(2) 求道会館に残されていた大量の書簡を整理し、分析する。そして、重要な書簡に関しては翻刻をする。

(3) 近角が当時の知識人青年に与えた影響を考察し、近角を中心軸として近代日本精神史を捉え返す。

## 2. 研究の進捗状況

(1) 三種類の機関紙、『政教時報』『求道』『信界建現』を電子化し、DVD に収めた。そして、この DVD を含めた中間報告書を関係図書館・関係機関・研究者に送付した。

(2) 求道会館に残されていた一万通に及ぶ、書簡の差し出し人の確認をほぼ達成した。

(3) 宮沢賢治や古澤平作や三木清と、近角との関わりについては、おおよその内容を明らかにすることができた。

## 3. 現在までの達成度

②

予想以上に順調に研究は進展している。ただし、次々と新たな研究材料が出てくるため、まだ未整理な資料もあり、おおむね順調とい

うのが妥当な評価だと考える。

## 4. 今後の研究の推進方策

これまで三年間の研究を本年度も着実に進展させ、本年冬に資料紹介を含んだ、一定のまとまった報告書を作成する。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

①岩田文昭「阿闍世コンプレックスと近角常観」、『臨床精神医学』第38巻第7号、915-919頁、2010年、査読無

②岩田文昭「近角と賢治」、『宮沢賢治学会イーハトーブセンター会報』第40号、16-17頁、2010年、査読無

③岩田文昭「宮沢賢治と近角常観—宮沢一族書簡の翻刻と解題」『大阪教育大学紀要 第I部門 人文科学』第59巻第一号121-140頁、2010年、査読無

④岩田文昭「三木清と武内義範——「宗教哲学」研究の先入見——」『宗教哲学研究』第28号、44-50頁、2011年

〔学会発表〕(計2件)

①岩田文昭「近角常観と日本近代精神史」、真宗同朋会運動指定研究：清沢満之を嚆矢とする近代教学の革新運動の研究、2009年6月30日大谷大学

②岩田文昭「近角常観と知識人青年——三木清と武内義範——」日本宗教学会第68回学術大会、2009年年9月13日

〔図書〕（計1件）

①岩田文昭リトン『宗教史とスピリチュアリ  
ティ 源流と展開上』2001年31-52頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

2010年朝日新聞（山口版）9月25日  
に近角常観宛と嘉村磯多の書簡に関する、  
本研究の記事が掲載される。